

〔発言者〕 山口仙二

〔発言年月日〕 1982年6月24日

〔生年、被爆地、職業など〕 1930年生まれ。長崎で被爆。平和運動家。

〔内容〕

私の顔や手をよく見てください。よく見てください。世界の人々、そしてこれから生まれてくる人々、子どもたちに、私たちのようにこのような被爆者に、核兵器による死と苦しみをたとえ1人たりとも許してはならないのであります。核兵器による死と苦しみは私たちを最後にするよう、国連が厳粛に誓約してくださるよう心からお願いをいたします。私ども被爆者は訴えます。命のある限り私は訴え続けます。ノーモア ヒロシマ、ノーモア ナガサキ、ノーモア ウォー、ノーモア ヒバクシャ、ありがとうございました。

〔注〕

第2回国際連合軍縮特別総会の全体集会において、NGO代表として演説をした時の締めくくりの言葉。「ノーモア ヒロシマ、ノーモア ナガサキ、ノーモア ウォー、ノーモア ヒバクシャ」という言葉は、被爆者の訴えとして繰り返し引用されてきた。中学の社会科の教材にも取り上げられた。

(この部分は長崎放送のHP「被爆者の証言：第7回」所収。)

<http://www2.nbc-nagasaki.co.jp/peace/voices/no07.php>

「朝日新聞」電子版(2014年1月22日)によれば、演説の全文の草稿は初稿から第4稿まで4種類が日本被団協の事務所に保管されている。

<http://www.asahi.com/articles/ASG1H5332G1HPTIL01V.html>